

II 事業の概要

1 教育事業の実施状況

【久留米信愛女学院短期大学】

1 短期大学の概要

(1) 設置する学科

幼児教育学科、フードデザイン学科

(2) 学科の入学定員、学生数の状況（平成29年5月1日）

学科名		28年度	29年度	備考
幼児教育学科	入学定員	100	100	
	収容定員	200	200	
	在籍者数	128	120	
	充足率(%)	64.0	60.0	
フード デザイン学科	入学定員	40	40	31年度 入学生から 定員35名
	収容定員	80	80	
	在籍者数	53	38	
	充足率(%)	66.3	47.5	
全学	入学定員	140	140	
	収容定員	320	320	
	在籍者数	190	158	
	充足率(%)	59.4	49.4	

(3) 卒業生、学位授与の状況について（平成30年3月31日）

	幼児教育学科	フードデザイン学科	合計
平成27年度入学生	54	20	74
在籍者数	49 (退4・徐1)	19 (退1)	68
卒業資格なし	1	0	1
卒業生(短期大学士)	48	19	67

2 はじめに

2018年を境に18歳人口は激減期に入ります。その前年の平成29年(2017)に短期大学は設立50周年を迎えました。2017年を短期大学再生のリミットと考え、平成23年度に「50周年プラン」(6年間の中期計画)を策定し、PDCAサイクルを稼働させ、具体的取組みを展開しました。しかしながら再生の道は険しく、平成29年度は「信愛ひらくプロジェクト2018～短期大学再生計画～」(5年間の中期計画)を策定し、不退転の決意をもって新たに再生の道を歩み始めました。

3 平成29年度の重点的取り組み

(1) 短期大学再生プラン

①現状と課題

平成28年度の入学生は幼児教育学科5割5分・フードデザイン学科5割と近年最も低い数字でした。教職員全員が危機感を共有し全力で学生募集に取り組みましたが、平成29年度の入学生は幼児教育学科前年度比+16・フードデザイン±0、計+16名となり、V字回復と呼ぶには至りませんでした。平成30年度入学生は幼児教育学科平成28年度比+4・フードデザイン学科-1、計+3名となり、幼児教育学科は2年連続増となりましたが、フードデザイン学科は減少しました。

②開かれた学校づくり

平成30年度入学生から共学となります。主に18歳の女子をターゲットとしたこれまでの短期大学から、男女の区別や年齢の差、環境の違いや障がいの有無を超えた、多様な学習目的を持つ多様な人々に応じた、すべての人の夢を叶える短期大学の創造を目指します。高校生を対象とした高等教育提供だけでなく、学び直し場として、転職のための免許取得の場として、退職後のセカンドライフの学びの場として、リカレント教育の場として、さまざまなニーズに応える教育を構築します。

③学生募集の強化

ア 共学化への対応

男子学生の初年度入学者の目標を5名とし、5年後の目標を10名としました。幼稚園・保育所・施設宛てにキャンパスガイドを送付し、職場への共学広報を推進しました。進学説明会・高校訪問での高校教員への浸透を図り、共学化リーフレットを作成し広報に努め、オープンキャンパス等をリニューアルした結果、6名の入学者を迎えることができました。目標10名を5年後から3年後に変更しました。

イ 社会人入学生の開拓

社会人入学生を増やすため、「パコラ」での広告やウェブサイトでの広報を強化した結果、18名の社会人入学生を迎えることができました(昨年度は9名)。

ウ SNSを使用した広報

ツイッター・フェイスブックを広報活動に使用し、動画を積極的に導入しました。

エ マスメディアによる報道広報

地域のイベント等に学生が積極的に参加し、マスメディアでの報道を活性化しました

(「ココ、カラダ。」等)。

(2) 新規中期プラン作成

平成 30 (2018) 年度から平成 34 (2022) 年度までの 5 年間の短期大学の中・長期計画(「信愛ひらくプロジェクト 2018～短期大学再生計画」)を策定しました。

(3) 大学改革等による外部資金の獲得

「私立大学等改革総合支援事業」及び「私立大学等経営強化集中支援事業」にエントリーし、採択されました。

①「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 1 教育の質的転換 補助金 5,434,000 円
九州の私立短大 37 校中 18 校採択

②「私立大学等改革総合支援事業」タイプ 2 地域発展 補助金 4,505,000 円
九州の私立短大 37 校中 9 校採択

*九州の私立短期大学 38 校のうち、タイプ 1～タイプ 3 のうち、3 タイプ採択 1 校(中村学園)・2 タイプ採択 7 校(本学含む)・1 タイプ採択 13 校。未申請・不採択 17 校。

③「私立大学等経営強化集中支援事業」タイプ B 補助金 9,938,000 円
九州の私立短大 37 校中 12 校採択

4 幼児教育学科

(1) 教育活動の充実

①本学の保育者養成力の向上を図るため、教育内容の点検、開講期などカリキュラムの検討を行い、平成 31 年度入学生から実施される教職課程の新カリキュラムを作成し、文部科学省に教職課程再課程認定の申請を行いました。

②保育・教職実践演習で作成する履修カルテを基に、学生ポートフォリオを用いた学生への教育支援プログラムを実施しました。また、ゲストスピーカーとして保育現場で活躍する保育者を招き、実践的な学習プログラムを実施しました。

(2) 学生支援の充実

就職部と連携して保育職面接特訓講座などを実施したほか、福岡県幼稚園連盟の筑後部会・福岡部会、佐賀県幼稚園協会と養成校との懇談会への参加や実習訪問指導などの機会を通じて情報交換を行い、信頼関係を深めました。結果として今年度も約 900 件の保育職の求人が確保でき、就職率も 3 月末で 100% (保育職等の専門職 95.6%) を達成しました。

(3) 研究活動の活性化

リカレント教育の一環として、本学科教職員と卒業生の保育者で信愛保育研究会の活動を行い、「保育者の養成と育成を考える」というテーマで主に園長や主任の任につく卒業生を対象にして本学科教員と研究会を実施しました。また、学科教員の研究成果を発表するため「信愛保育研究」を発刊し、3 編の投稿がありました。

(4) 地域参画

おもちゃライブラリーを拠点にして、地域の子育て支援に参画しました。具体的には昨年度に引き続き、「信愛つどいの広場」(週 3 回)、「子育て支援講座」(月 1 回)、「子育て相談」などを実施しました。また、地域の子育て支援に関する行政への協力として、久留米市社会福祉審議会や久留米子ども子育て会議等への委員協力を行いました。その他にも、「幼児問題

研究セミナー」において、「からだあそび研究会」、「保育環境研究会」、「ピアノ・トーンチャイム研究会」、「手作りおもちゃ研究会」が地域活性化を目的としたイベントへの参加、子育て支援の現場との連携した活動を実施しました。

(5) その他

8月に教員免許更新講習（幼稚園教諭対象）を実施、延べ約200名が受講者しました。高大連携は南筑、明光学園、誠修、三井中央、福岡海星女子学院の各高等学校との連携事業、並びに信愛高校との接続事業を実施しました。また他の高校への職業理解等の出前講座も積極的に実施しました。

5 フードデザイン学科

(1) 「2018年改革」

本学科の重点課題は「定員充足」です。「信愛ひらくプロジェクト2018」の下、「学科再生計画」として、「学生募集」対策を中心に協議検討を重ね、「新・中期計画」を立てました。

(2) 公開講座

平成29年度は、3講座開講しました。

① 「みんなの食育講座Ⅰ - 卓（テーブル）へのお誘い」

講師：八木なほ子（本学非常勤講師、食空間コーディネーター協会認定講師）

- ・第1回「日本の食卓～家族の集い」平成29年4月23日（土）
- ・第2回「紅茶の魅力～紅茶のコーディネーター・テーブル」平成29年7月30日（土）
- ・第3回「日本の食卓～正月のしつらい」平成29年10月29日（土）
- ・第4回「あなたも今日からテーブルコーディネーター～
コーディネーターは難しくない」平成30年1月28日（土）

受講者数はのべ65名でした。

② 「みんなの食育講座Ⅱ - 健康寿命を延ばす食生活」

講師：石井妙子（本学教授、元済生会福岡総合病院栄養部科長）

- ・第1回「噛むのが難しい方のための調理の工夫」平成29年6月17日（土）
- ・第2回「飲みこみにくい方のための調理の工夫」平成29年7月8日（土）

受講者数はのべ12名でした。

③ 「みんなの食育講座Ⅲ - 手作りを楽しむ」

講師：江越和夫、山下浩子、山村涼子（本学教授、開講順）

- ・第1回「大豆を味わう～豆腐とおから」平成29年9月30日（土）
- ・第2回「筑後の郷土料理～がめ煮とうどん」平成29年11月25日（土）
- ・第3回「新年を祝う食卓～おせちとお雑煮」平成29年12月2日（土）

受講者数はのべ40名でした。

(3) 地域企業との共同開発

平成28年度に引き続き、地域企業等4団体との連携活動に取り組みました。

1つは「JAくるめとの連携事業」で、JAくるめ広報誌『With You』の「うまかもんクッキング」コーナーへ、毎月のテーマとなる久留米産農産物を使った料理レシピを学生が考案し

て掲載するものです。

2つ目は、『くるメディア』情報誌への月1回の「久留米信愛短大の元気レシピ」の掲載です。これまで本学科で取組んだ発表レシピを中心に、本学の広報活動も含め実施しています。

3つ目は、27、28年度に取組んだ産官学連携事業「ココナッツの有効成分を利用した健康食品の開発」研究会（通称、「ココナッツ研究会」）の成果物として、学生考案の『ココナッツドーナッツ』が、ぶどうの樹（株式会社グラノ 24K）により商品化されました。6月より販売開始となり、当初夏季限定の予定でしたが、好評につき継続販売されています。

4つ目は、生活協同連合会グリーンコープ連合のカタログ『Green ぶらす』（月1回発行）に、学生考案レシピを掲載しています。

（4）地域参画

2017年度新規科目「フードプロジェクト」において、久留米市六ツ門商店街に「信愛クリスマスショップ」を開店（12月の土、日2日間）しました。本事業参画については企画・運営をアクティブラーニングの一環として取り組みました（1年生19名）。

また3月春期休暇期間の1日、久留米市就学支援事業における食育ボランティア活動として、無料学習塾の塾（中学生）「春の料理教室」実施しました（1年生10名）。

（5）「フードデザイン室」ほか調理・給食施設の開放

本年度は、フードデザイン室ほか調理・給食施設を下記の2団体（研修会）に施設開放を行いました。

- ・久留米大学講義「食と健康」における調理実習（4回）
- ・久留米市学校給食会研修会（1回）

6 おわりに

2018年を境に18歳人口は激減期に突入します。その前年の2017年は、短期大学設立50周年の年でした。本学院の創立100周年を迎えるため、教職員一人ひとりのポテンシャルを信じ、「一の心、一の魂」の精神をもって、知恵と汗を絞り、難局を乗り切る所存です。

【久留米信愛女学院中学校・高等学校】

1 重点目標の達成について

重点目標：「学びの習慣化」の徹底からはじめ、グローバル教育、ICT教育の充実と、対話的授業と課題解決型学習の促進により、生徒の「主体的に学ぶ姿勢」を形成する。

年度初めの取組みとして、学びの習慣化を目指して初期指導の徹底を図りました。「自律確立週間」や「学習方法講座」において、3点固定（起床時間・就寝時間・学習開始時間の固定）を行うことやステラ手帳を活用し毎日の生活についてPDC A（計画・実行・振り返り・工夫）のサイクルをうまく回すことなどを指導しました。この指導は自律から自立へと、主体的に学ぶ者へと成長させるための基礎固めとして、日常の教育活動において継続していく取組みです。

また、「信愛 ひらく プロジェクト」開始の年度として、高大接続改革が本格化する2020年へ向けて学びの深化とグローバル教育を実践強化するために、国際理解教育の充実を図り、職員研修を手始めにICT教育を推し進め、アクティブラーニングのプログラムの充実や促進を図りました。

2 教育活動

(1) 生徒の成長段階に合わせた進路学習会・講演会の実施や個人面談等のきめ細かな進路指導を通して、進路意識の高揚を図りました。過去7年間の大学等合格状況の推移は次のとおりです。

年度	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017
卒業者数	94	92	105	89	90	79	77
国公立大学	20	※1 14	※3 25	※4 25	※5 25	※7 23	※8 18
私立大学	111	86	129	117	138	127	131
海外の大学	0	※2 1	0	3	※6 1	0	0
短期大学	23	25	14	19	6	13	14
うち信愛短大	16	18	11	11	4	8	2
専門学校	14	8	11	9	9	6	9
就 職	4	2	0	0	1	0	0

※1 防衛大学校一次合格2名を含む。 ※2 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

※3 防衛大学校一次合格6名、水産大学校合格1名を含む。

※4 防衛医科大学校合格1名、防衛大学校合格1名、航空保安大学校合格1名、防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格4名を含む。

※5 防衛大学校合格1名、防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格1名を含む。

※6 既卒生。ハンガリー国立大学医学部合格。

※7 防衛医科大学校一次合格1名、防衛大学校一次合格7名を含む。

※8 防衛医科大学校合格1名、防衛大学校一次合格8名を含む。

合格した主な大学は次の通りです。

〔国公立大学〕 九州大学 1・佐賀大 1・長崎大学 1・大分大学 1・山口大学 1・愛媛大学 1・
島根県立大学 1・北九州市立大学 1・名桜大学 1

〔私立大学〕 早稲田大学 6・明治大学 3・立教大学・中央大学 2・東京理科大学・津田塾大
学 2・日本大学 3・拓殖大学・武蔵野大学・北里大学・帝京大学 4・国學院大学・神奈川
大学・近畿大学 4・西南学院大学 8・福岡大学 20・久留米大学 15 他

(2) 理数系に強い女子の育成について、進学実績から見てみると理系学部学科への進学は 39.2%と高い数字を示しています。医学部医学科へは 6 年連続合格者を出しました。生徒の特性を踏まえた学習指導の充実と視野を拓げるための各種研修会への参加督励等を行った結果と見えています。日常の取り組みとして中心に据えているのは「寄り添う指導」です。きめ細かな個別指導及び全体指導を行い、3 年間または 6 年間をかけての進路意識高揚と学力向上を図っています。これから必要とされる社会人基礎力とも言うべき「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の育成は本校が得意とする領域です。生徒に寄り添い、大学受験を睨みつつさらなる進路指導の充実を考えていきたいと思えます。

(3) 複雑にグローバル化が進む中、国際的視野育成のプログラムを充実させ、国際交流の深化と語学研修の充実に努めました。

プログラム	概 要
カナダ修学旅行	高校 2 年生 (80 名) 10 月実施 バンクーバー周辺 6 日間 4 泊ホームステイ セント・トマス・アキナス校との交流
韓国研修旅行	高校 1 年一貫生希望者 (27 名参加) 10 月実施 ソウル・天安 姉妹校福者女子校との交流 3 日間(うち 1 泊はホームステイ)
ニュージーランド研修	中学 3 年希望者 (11 名参加) 8 月実施 オークランド 10 日間 姉妹校セント・ドミニクス・カレッジでの語学研修
福者女子校との交流会	高校 2 年 7 月実施 九州への 3 日間の修学旅行の一環として生徒 (35 名)、教師 (4 名)、ガイド (2 名) 来校 本校生徒宅へのホームステイ
イングリッシュ・キャンプ	中学 1 年 (5 名参加) 8 月末実施 3 日間 グローバルアリーナ 英語漬け合宿
海外留学 (1 年間) 帰国	高校 3 年 : 2 名 (アメリカより) 高校 2 年 : 1 名 (アメリカより)
海外留学 (1 年間) 出発	高校 1 年 : 3 名 (アメリカ、カナダ、ニュージーランドへ)
海外留學生の受け入れ (1 年間)	高校 1 年 : 1 名 (ハンガリーより)
海外短期留學生の受け入れ	中学 2 年 : 1 名 (アメリカより)
聖マリア病院留学	中学 2 年 67 名 10 月実施 国際交流事業研修員 10 名 (男性 8 名・女性 2

生（医療従事者）との交流（中学）	名)の出身国について事前に調べ、当日は質問をし説明を受けるなどして理解を深め、日本文化についても紹介した。
------------------	---

3 広報活動

中学校では、共学初年度の生徒受け入れとなる2018年度（平成30年度）入試で、合格者86名中に男子28名で32.6%を占め、約3分の1が男子入学者となりました。志願者数178名、前年度比81.6%増となり、86名入学で前年度比45.8%増となりました。歩留まり率は前年度60.2%に対し、今年度は48.3%でした。中学校入試においては、以前から個別相談会（お話し受験会実施後に行っていた、試験成績をもとにした受験相談会のこと。信愛オープン学力診断テスト（以下オープンテストと呼ぶ）実施後にも行っている）に来場した受験者の入学率は高かったのですが、オープンテストの開始以降、この状況はさらに顕著になりました。次年度で4回目となるオープンテストについて受験者増のための方策と個別相談会への参加者増のための工夫が必要です。また、学習塾との円滑な関係の構築、特に小学校への積極的なアプローチなど、広報戦略の展開を抜本的に見直す必要があります。

高校では、2016年度（平成28年度）から、従来の学際特進コースとS特進コースをそれぞれ学際コース、選抜コースとしました。学際コースはさらに4つのフィールド（幼児教育・フードデザイン・看護医療・総合）に分け、学ぶ内容が明確になるように改編しました。2018年度（平成30年度）入試では志願者数182名、前年度比5.2%増となり、85名入学で前年度比5.6%減となりました。高校の志願者数は昨年度より増加しましたが、前年度歩留まり率52.0%に対し、今年度は46.7%となり前年度より5.3%下がりましたので、ここ数年並みの入学者数となりました。また、推薦・専願入試での入学者が前年度には及ばないものの20名を越えていますので（前年度31名、今年度21名）、この数の維持を考えていく必要があります。なお、本校中学3年生50名の内の他校受験は10名で、その中で本校進学は1名でしたので41名の中学3年生が高校に進学したことになります。課題として、中学生とその保護者にとって高校の魅力とは何か、高校の魅力のブラッシュアップも含めての高校の魅力づくりと進学実績の一層の向上が求められます。また、本校中学生への進学の勧め方の工夫も必要ですし、コースとフィールドの内容や広報計画について改善の必要もあります。

4 その他

- (1) 中学1年から高校3年まで学年単位、または学年合同で発達段階に応じた行事、テーマに合わせて、「神父様の講話」や神父様のご指導のもと行った「中3学年ミサ」、「錬成会」、「みことばの祭儀」、職員対象のミサなどを通して、カトリック学校としての教育理念の確認、「信愛教育」の徹底を図ってきました。
- (2) 同窓会との連携で、5月に「ロザリオの集い」（人生の節目となる40歳・60歳の集い）、1月に「信愛成人式」などを催し、卒業生と教職員・生徒との絆を大切にしつつ、「女性の一生をサポートする」学院の姿勢の明確化・定着に努めました。「野のゆり奨学金」が「野のゆり入学祝い金」となって3年目、同窓生の子女の入学をサポートしています。
- (3) 福岡県副知事の主催する「福岡女性いきいき塾」出身のメンバーの方々を中心に、社会に

出てリーダーシップを取りながら活発に働く女性の皆さん10名ほどを招聘して、高校1年生と中学1年生が少人数のグループに分かれ交流する「働く女子と学ぶ女子の座談会」を3月に催しました。人前で自分を押し出す場を設け、自己表現力やコミュニケーション能力を高める機会としました。

- (4) 後援会との連携で、「信愛近隣北地区」・「信愛近隣南地区」・「久留米市街東地区」・「久留米市街西地区」・「久留米南西地区」・「久留米北東・三井地区」・「田主丸・吉井・うきは地区」・「甘木・朝倉地区」・「八女・筑後地区」・「大川・柳川・大牟田地区」・「小郡・筑紫野・福岡地区」・「鳥栖・三養基・佐賀地区」の12地区で地区保護者会や懇親会が開催され、後援会のネットワークが一層強まりました。
- (5) 後援会との連携で「信愛父親の会 (Shin-ai Dads' Club)」が発足し3年目を迎えました。活動は5月に体育祭のテント立て、9月に文化祭警備、12月上旬にイルミネーション設置作業と点灯式を催し、お母様方の参加もありさらに充実したものとなりました。ご公現の日(1月上旬)まで灯されるイルミネーションは地域の方にも喜ばれています。
- (6) 今年度は、中学校共学化とそれに伴う制服等の変更について後援会会長・同窓会会長に4月に通知したことに始まり、4月27日(木)、5月13日(土)に保護者説明会実施。高等学校共学化については10月27日(金)に保護者説明会実施。この間にも後援会会長・同窓会会長を始めとする関係者への説明を数回実施しました。共学化の目的や経緯、今後の展望などをその都度できるかぎり丁寧に説明してまいりました。学校にとっては様々な対応を迫られた年度でありましたが、現在は落ち着いた状況になっています。

教育内容や教育活動に目を移しますと、学院創立60周年の2020年という節目の年に向けて開始された学院改革プロジェクト「信愛 ひらく プロジェクト」のもと、中学校共学化もその一環として実施されるものですがそれも含めて、あらゆる面で教育を再検討しました。2020年高大接続改革を視野に入れてのカリキュラムや教育プログラムの変更、募集・入試に関わってのパンフレット作成、行事の検討、制服デザインの検討、施設設備の設置や配置検討(特に男子WCや男子下足箱の設置等)、職員研修と種々の準備をすすめてきました。すべての準備がほぼ完了し、次年度に男子中学生を受け入れ、共学を開始する準備は整いました。共学スタートの次年度は、対応や対策だけに終わることなく、そして2019年度(平成31年度)は高等学校も共学開始となりますのでこのことも併せて久留米信愛の将来を見据えて、その展望のもとに各種施策を進めていきたいと思ひます。もちろん、女子生徒だけの学年や保護者への配慮も忘れることなく行っていきたいと思ひます。

【久留米信愛女学院幼稚園】

1 概要 H30 年度の入園児数

	H27 年度 新入園児数 (名)	H28 年度 新入園児数 (名)	H29 年度 新入園児数 (名)	H30 年度 新入園児数 (名)
在園児数	235	227	239	221
入園児数	78	77	87	74
5 歳児入園	2	1	2	1
4 歳児入園	4	3	2	7
3 歳児入園	30	29	28	22
満 3 歳児入園	0	0	0	5
前年度満 3 歳児入園	42	44	55	39
H30 年度 時点での学年	新 1 年生	A (年長児)	B (年中児)	C (年少児)

5 月 1 日現在

2 重点目標達成について

前年度よりも園児数が減少してしまったため今年度の目標は、達成出来ませんでした。この結果を真摯に受け止めて、地域社会から求められている久留米信愛幼稚園の役割を再度発見することに努めます。

(1) 入園児減少

平成 29 年度の入園児は増加したが、平成 30 年度は減少し、外部からの 3 歳児入園数が 6 名減少。未就園クラスからの入園児数 16 名の減少となりました。

分析

- ① つぼみ 10 月以降の入会者の減少
- ② わくわくランド参加者の低年齢化
- ③ その他の要因

改善

①について

ここ 2、3 年の傾向として、兄弟関係が直接入園ではなく、事前につぼみへ入会されるケースが多くあったため、つぼみからの入園児数が多くありました。しかし、今年度は兄弟関係の入会が減少し、さらに新規入会者が増えず、入園児数が減少となりました。

②について

かつての「集いの広場」が H28 年度は、前年度と比較し微増でありましたが、前年度以前の賑わいを取り戻すため内容の見直しを行い取り組みました。

- a) ネーミングを「わくわくランド」としました。
- b) 学院正門横に看板を取り付け、開催日を掲示しました。
- c) 活動場所を変更しました。H29 年度よりつぼみクラスでモンテッソーリ活動を行い、親子体操、職員による出しものをリズム室で行いました。

メリット

- a) 興味をそそるネーミング、印象に残りやすいネーミングになりました。
- b) 外部に向け、日付やイベントを知らせる手段が出来きました。
- c) つぼみ組で補助教具に触れ、入園後のイメージが付きやすく、モンテッソーリ教育に対して親しみやすくなったようでした。
- d) つぼみ組からプールが見え、移動後のリズム室の広さが開放的な心理を与え親子体操を楽しく取り組む親子がよく見られました。また、希望者はいつでも在園児クラスの見学が出来る等、幼稚園の施設が分かりやすくなりました。

結果

参加者は増加しましたが、参加する子どもの低年齢化が目立ち、H30 年度の入園に結び付けることが出来ませんでした。保護者の関心が就園 1 年前ではなく、もっと早い時期からとなり情報収集が行われていることと、育児休暇後の社会復帰の時期が早くなっている印象を持ちました。

次年度の改善点

外部へ知らせる手段を増やす・広げる。(御井地区だけでなく、他の地区の方にも興味を持っていただく。) →新聞広告年 2 回予定 ・ 夏祭り前
・ 体験入園会前

③その他の要因

久留米信愛幼稚園が入園対象とならなかった要因が何であったのかを検証し以下の項目が挙がりました。

ア 園行事の変更について

園見学者から「保護者参加の行事」について質問が挙がることが増加し、その負担を軽減するため参観行事を H29 年度より減らしています。

- ・ 1 学期のモンテッソーリ活動参観 (4 日間)
- ・ 2 学期のモンテッソーリ活動参観 (4 日間)
- ・ 新年度の給食試食会
- ・ ビデオ撮影会の開催を 1 日で組み込む
- ・ A 組女の子のお茶 (お煎茶) を (お抹茶) に変更
(・ 保護者のボランティアを募らない。)
- (・ 3 学期のお茶会 (リズム室) をお茶の参観 (スズラン 3 階の和室) に変更)

結果として、園児数増加には影響が無かったようです。保護者が負担となる参加の行事について、再度園行事を検討し、幼稚園と保護者間の信頼関係・協力関係は保持しつつ、保護者が負担とならないように再検討が必須であると感じています。

イ 園アピールについて

H29 年度は、QR コードを掲載した園紹介カードを作成しましたが、配布場所や配布時期を十分に計画できず、未配布カードが多く残りました。また、QR コード取得手順の使い勝手が悪く改良が必要な点がありました。導入初回でありましたので、結果に繋がりませんでした。問題点を改善し次年度に再度挑戦しているところです。

3 三つの価値についての評価

- ・生涯価値…宗教活動について、H29 年度の年長児による「聖劇」では、エンディングの合唱を日本語の歌詞とし、歌詞に心を込めて歌うことを 2 学期の宗教を通して取り組みました。インパクトは以前より弱いですが、保護者からは、感動したと好感触がありました。なによりも、子ども達自身が何の歌なのかが分かって歌えるようになりました。
- ・固有価値…3 学期の作品展の展示物を、日常取り組んでいるモンテッソーリ活動から展示するように配慮しました。例年よりも子どもたちの個別活動への意欲が卒園間近まで継続する様子が見られ、卒園式も練習回数が少ない中で仕上げる事が出来ました。
- ・非言語価値…備品整理と共に、園内の環境整備を行い、危険な配置を変更し、使用見込みのないものを整理し、子どもの活動スペースを獲得することが出来ました。
 - ・園舎 1 階廊下の絵本棚の整理
 - ・園舎 1 階職員更衣室・実習生準備室の棚の整理

〔2 ヲ所の整理によって、1 階廊下の絵本棚スペースと、2 階リズム室前の廊下の棚スペースが空き、子どもの活動空間となりました。〕

総合評価

H29 年度、3 つの価値を深めるために職員が努力をし、子どもたちへ還元できていたのかという点について、3 学期の子ども達の表情からは、喜びが溢れており、その子どもを見つめる保護者の表情も穏やかな方が多くいらしたように感じられた。そのため、久留米信愛幼稚園にお子様を通わせることについてご満足頂けていたのではと思います。ただ、僅かな数ではありましたが退園者が出ており、各ご家庭の事情ではありますが、そのご家庭に寄り添っていたのかと謙虚に受け止めて今後の保育に向き合いたいと思います。

4 その他の取り組み

(1) わくわくランド (第 1・第 3 土曜日)

年間 12 回実施。(昨年度参加者延べ数 103 名) 延べ人数 11 名増の 124 名でした。

(活動内容)

- ・モンテッソーリ補助教材による個別活動
- ・親子体操 (コスモスポーツインストラクターによる指導)
- ・職員によるパネルシアター・絵本・手遊び等のお楽しみ
- ・お誕生日会

その他 (プール活動・エンゼルフエスタ (未就園児によるフェスタ)・おやつ作りクリスマス会等)

(2) 土曜学校 (第 1・第 3 土曜日) 小学 1 年生～6 年生対象

年間 12 回実施。目標 50 名、参加者 53 名で、目標を達成しました。

(活動内容)

- ・モンテッソーリ活動 (クロスステッチ・切手遊び・世界地図等)
- ・宗教 (卒園時に贈っている聖書を使用し、感想を毎回書き留めるようにする。)
 - ・ご復活について、チャペル礼拝、不思議なメダイについて、クリスマスについて、平和について

- ・その他の活動（流しそうめん、施設見学（キリンビール工場見学）、クリスマス会、お別れボーリング大会）

（3）預かり保育マリア組

開園日 預かり保育

	合計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
預かり保育対象園児数 (延べ人数)	7098	593	735	826	341		729	817	804	411	585	682	575
預かり保育実施日数		17	20	21	8		19	20	20	11	17	19	14
平均園児数		35	38	39	43		38	41	40	37	34	36	41

長期休業日 預かり保育（春・夏・冬期長期休業日）

	合計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
預かり保育対象園児数 (延べ人数)		100			602	1197				370	29		350
預かり保育実施日数		3			12	24				8	1		9
平均園児数		33			50	50				46	29		39

休業日（土曜日）預かり保育

	合計	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
預かり保育対象園児数 (延べ人数)	1006	50	78	126	65		121	124	121	58	87	116	60
預かり保育実施日数	37	3	3	4	4		4	4	4	2	3	4	2
平均園児数	27	17	26	32	16		30	31	30	29	29	29	30

- ・時間 早朝マリア 7時30分～8時20分 / 保育後～18時・延長保育～19時まで

注）長期休業日の預かり保育では、平均 70 名となる状況。盆前後や、年末年始は減少するため月平均人数が少なくなっています。

- ・内容 お集まりにて人数確認を行っています。

おやつ

室内にて、自由活動（ブロック、おままごと、工作・絵画・絵本読み等）、

戸外にて、自由活動（園庭遊び、学院内にて散策、お花見等）

- ・特徴・モンテッソーリの精神を生かし、自由活動の中でも、お約束を守りながら過ごし環境を整えると共に、子どもたちが安堵の中でお迎えを待つことが出来るように配慮しています。
 - ・保護者の希望があれば昼寝をする子どももいます。
 - ・食物アレルギーの子どももいる為、アレルギー対応のおやつを別途で準備し、またエピペンを預かり保育の保育室で保管しています。

4 おわりに

H30年度は、近隣に認定子ども園が更に増え入園児獲得が困難を極めていく状況にあります。園児数増加のためには、在園児が信愛教育を持ち帰り、その姿に保護者が満足し、周囲の方に本園を勧めて頂けることを強みに出来るよう励んで参ります。

2 管理運営の実施状況

(1) 理事会・評議員会の開催状況

① 理事会

- 第1回 平成29年4月18日
- 第2回 平成29年5月23日
- 第3回 平成29年6月20日
- 第4回 平成29年7月18日
- 第5回 平成29年9月19日
- 第6回 平成29年10月17日
- 第7回 平成29年11月21日
- 第8回 平成29年12月19日
- 第9回 平成30年2月20日
- 第10回 平成30年3月20日

② 評議員会

- 第1回 平成29年5月23日
- 第2回 平成29年10月17日
- 第3回 平成30年3月20日

(2) 施設設備の整備状況

平成29年度の主な施設設備については下記のとおり整備しました。

部 門	明 細	金 額	備 考
共 通	図書館トイレ改修工事	7,495,200 円	
	図書館屋上防水工事	7,290,000 円	
	古賀邸隣接部土留擁壁工事	1,080,000 円	
	外灯LED化工事	395,280 円	
短期大学	理化学実験室空調機更新	2,484,000 円	
	小ホール照明LED化工事	789,912 円	
	大型プリンター購入	521,640 円	卒業記念品
	応接室空調機更新	395,280 円	
	調理実習室給湯器更新	301,730 円	
	液晶プロジェクター購入	279,936 円	卒業記念品
	作法室空調更新	226,800 円	
中学校・ 高等学校	新館1Fトイレ改修工事	10,260,000 円	
	グローリアホール天井補修工事	2,214,000 円	
	スクールバス購入（トヨタハイエース）	2,190,000 円	
	高校3-2教室空調機更新	790,560 円	
	玄関付近外灯設置	464,400 円	卒業記念品
	新館・本館渡り廊下防火扉改修工事	347,760 円	
	校内放送プログラムタイマー更新	323,460 円	
幼稚園	屋外遊具塗装工事	935,280 円	
	屋外音響設備更新	628,000 円	
	屋外遊具補修工事	424,440 円	
	祈りの部屋祭壇	229,500 円	卒園記念品